

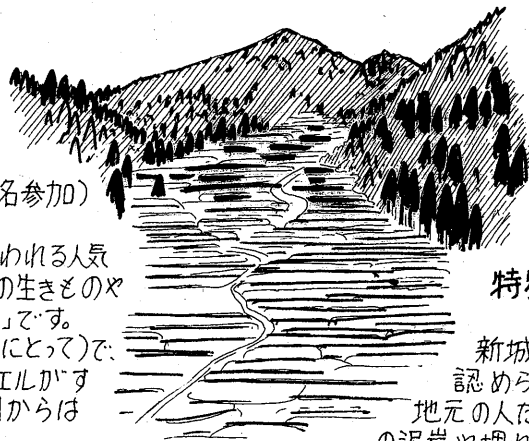
春のできごと



野外学習会の開催

(平成21年5月31日 47名参加)

この時期に毎年おこなわれる人気の観察会「鳳来寺山の初夏の生きもののモリアオガエルを観察しよう」です。今回はうれしい雨(カエルにとって)で、中腹の池では、モリアオガエルがすでに産卵してあり(3個)、洞からは雄が顔を見せてくれました。ニホンカモシカにも出会えました。



はつかたどり no. 131
2009.5

特別展「ふるさとの棚田と湿原をまもる」開催(平成21年4月29日~6月29日)

新城には、誇れる自然や景観が数多くあります。中でも優れた景観と保全の重要性が認められている四谷の干枚田と作手高原の湿原群に焦点をあてた特別展としました。地元の人たちが熱心に取り組んでいる保全活動や自然のようすをパネルで紹介。又、湿原の泥炭や埋れ木、田下駄の実物も展示しています。土石流から復興させた干枚田、虹の大湿原「大野原」など、現在からは想像できないほど「苛酷な環境と、人のくらしぶり」と感じて欲しいです。

新顔登場!(平成21年5月2日)

そろそろモリアオガエルが産卵にやってくると、池のそうじをしました。すると水ぎわの落葉にかくれるように、アワ状の卵塊が見つかりました。

子どものにぎやかな声でモリアオガエルのものではないようです。考えられるのはシュレーゲルアオガエルです。周囲をさがすと、いました。まちがいありません。当地初記録です。



ジュニアナチュラリスト養成楽級 第1回川辺の学校・生きもの教室 (平成21年5月10日 17名+親9名)

4年目の養成講座です。今回は玖老勢地内の海老川が教室です。午前中は川辺の虫、午後は川の魚の勉強のつもりでした。が、野や川に出しまえば、それどころではありません。みんな川ガキになっていました。

ウズラたべたい♪ (平成21年4月20日)

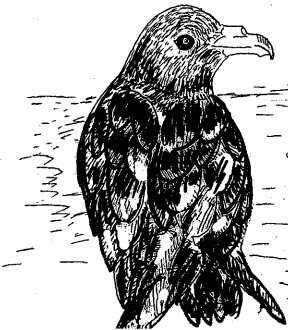
この日ストックしておいたウズラが底をつきました。中庭のコリハウスで保護しているオコノハズス、ゴミズク、フクロウの餌です。豊橋で発生した鳥インフルエンザの影響で入荷がでさなくなっていたためです。仕方なく、砂ノウを購入したり、冷凍庫の奥で永く眠っていた鳥肉、シカ(?)肉でしのぐことにしました。彼らには、食生活の激変です。幸い、5月29日からは入手でき、ひと安心。いのちがつかまりました。



新城でカモメ? (平成21年3月4日)

新城市八束穂にある大谷大学の正門付近で、カモメのような鳥が、近所の伊藤利浩さんによって保護されました。調べると、フルマカモメ(ミズナギドリ科)でした。本来は、北太平洋に生息し、日本では、中部以北の太平洋の沖で見られる鳥です。

どうしたのでしょうか。こんな山のかたに…。館ではめんどうがみられないので、弥富野鳥園で保護してもらうことになりました。



鳳来寺山案内 (平成21年4月22日)

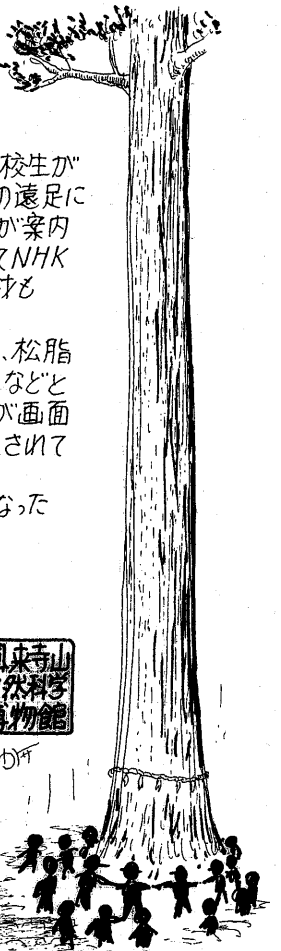
鳳来西小学校の全校生が館の見学と鳳来寺山の遠足に来てくれました。館長が案内役です。それに同行してNHK(ほっとイアニング)の取材もありました。樹高日本一の傘杉、松脂岩の大岩壁(鏡岩)などと子どもたちの笑顔が画面いっぱい映し出されました。良い思い出になったと思います。

博物館学術委員総会 博物館友の会総会 (平成21年4月19日)

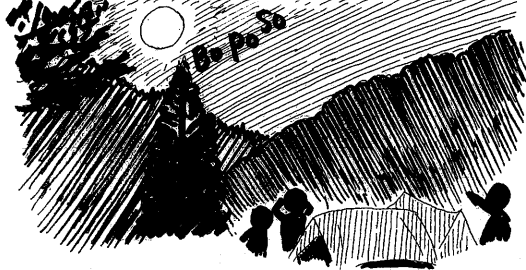
午前は市長さんと出席し、学術委員の総会でした。そして午後は友の会の総会。20年度の事業報告と、21年度事業計画について話しあわれ、承認されました。21年度も全力でがんばります。講演は横山前館長でした。



「中央構造線と設楽岩脈群」について、とても興味深い内容を、楽しく話してくださいました。



水無月と博物館

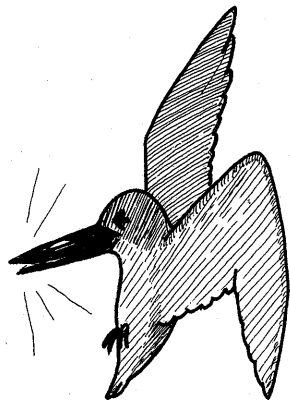


コリハズク鳴く(平成21年6月6日)

鳳来寺山では、今年は鳴かないのか...あきらめの気持ち半分を調査に出かけました。場所は鳳来寺山の北側のカラ沢の谷です。午後10時、山頂の尾根方向から、かすかに鳴き声が聞こえ、ひと安心しました。四谷では5月1日が初鳴日です。

激突事故(平成21年5月30日)

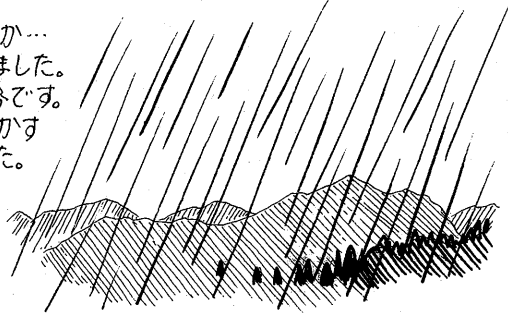
この日は朝から館の周りでアカショウビンがよく鳴くネ!と話していました。すると直後に何かガラスにぶつかる音が響きました。事務室から飛び出してみると、ロビーにアカショウビンが横たわっていました。保護し、一時回復したかに見えましたが、2日後に死んでしまいました。



玄関からロビーに飛び込み、中庭にぬけるとここでガラスにぶつかってしまったようです。かわいそうなことをしました。

モリアオガエル喜ぶ(平成21年6月25日)

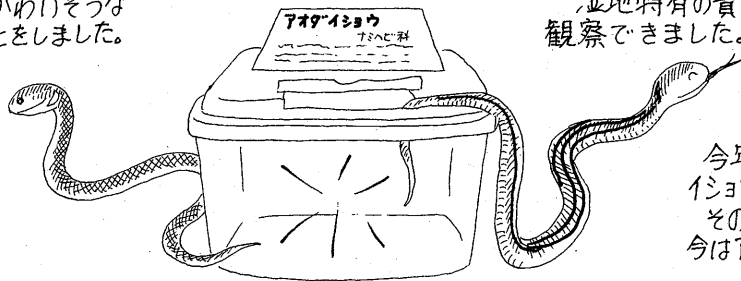
雨が多い今年には博物館の敷地内でも、モリアオガエルの産卵が例年になく、多く見られました。展示館横の産卵池で5個、前庭のハナキに8個の卵塊が産みつけられ、ちょっとした出産ラッシュでした。



梅雨入り(平成21年6月9日)

東海地方が梅雨に入っすいふんたります。博物館ではいたるところで結露してたいへんです。標本類にとってはカビは大敵。早くスッキリとした天気になってもらいたいです。

梅雨あけは8月3日でした。昨年より22日と遅く、統計上最も遅い梅雨明けだったようです。



生物多様性を学ぶ現地見学ツアー

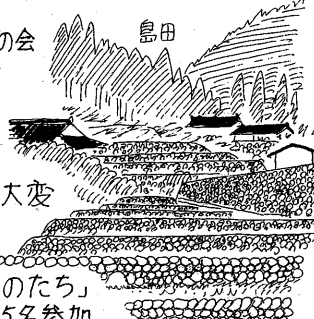
①「棚田の保全と生きものたち」(平成21年6月14日 26名参加)

学術委員の小山さん、友の会会長の小椋さんのガイドで愛郷島田の棚田と、四谷の干枚田を見学しました。豊富な湧水、みごとな棚田。保全の重要性と大変さを実感しました。

②「湿原の保全と生きものたち」(平成21年6月28日 15名参加)

作手自然愛好会の大石さん、今泉さんのガイドで見学しました。かつての大湿原(大野原)の一部が残った清岳向山、鴨ヶ谷湿原、庄の沢、長山湿原など、作手高原と湿原の成り立ちに思いをのぞかせました。

ミカワバイケイソウやフサレダマなど、湿地特有の貴重な植物の数々を、じっくり観察できました。

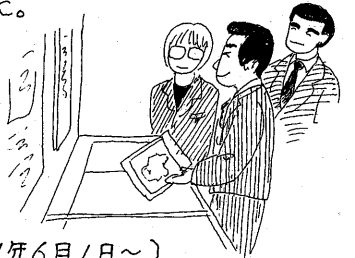


友の会「夜の生きもの観察会」(平成21年6月20日 38名参加)

会員限定の人気観察会です。今回は、博物館と、周辺でおこなわれました。ムササビの巣穴、ヨタカの鳴き声、火燈火採集など、盛りだくさんの内容でした。音為川のゲンジボタルの群舞に出会い、感激しました。

初任者研修(平成21年6月10日)

この地方の初任の先生12名が来館してくれました。愛知県下でも数少ない自然系博物館です。学校教育でも大いに活用していただければうれしいです。初任の先生たちが熱心に見学してくれました。



今夏もロビーにヘビ展です!(平成21年6月1日~)

今年も小椋会長の協力で、ヘビの飼育展示が始まりました。最初はセバカリとアオダマショウから始まりましたが、1週間後にセバカリが脱走。山へ帰っていきました。その後、シマヘビも脱走。ロビーと事務室にいないので、無事に逃げられたようです。今はアオダマショウとママシがいます。ママシは危険なので逃げられないようにしてあります。

文月の博物館

夏の特別展「変わりゆくふるさとの自然」

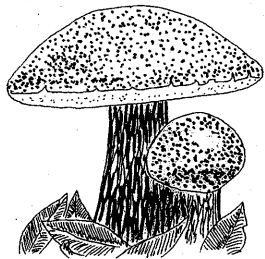
(平成21年7月19日～8月31日)



自然は時とともに刻々と変化しています。

タムの湖底に沈んだもの、

ひと昔前までは見なかったのに、分布を広げているもの、反対になくなったものが身近なところでいくつもあります。また、外来動植物の侵入などもあります。足元の自然の変化について学術委員の視点で紹介しています。

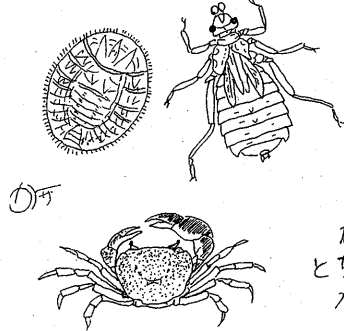


ミカワフロミアシク子発生 (平成21年7月14日)

三河の名が付いた毒きのこ(猛毒菌)です。新城のきのこの調査をしている山田弘先生に同行し、断正山(徳川家康の本陣跡:長篠の戦い)で見つかりました。今年のテーマはシイカシ林のきのこです。新城市内でのミカワフロミアシク子の記録としては、初と思われれます。この森はヒメハルセミの生息場所でもあり、大合唱と聞けました。

ジュニアナチュラリスト養成楽級第2回「水の中の生きもの」

(平成21年7月5日/2名参加)



今回は水生昆虫の観察を中心に起こしました。雨ばかりで水量が多かったのですが、午前中は海老川で川虫(水生昆虫)を採集。午後は採集した川虫の名前を調べました。水質判定指標生物で、最も多かったのはヒラタドムシ、次がコオニヤンマとサワガニでした。水質の判定結果は「少しきたない水」でした。

太陽が欠けた!
(平成21年7月22日)

午前11時45分、雲が「ほどよいフィルター」になって、日食を観ることができました。水鏡に映る日食のようすと、撮影でき感激。次回は26年後。現世で見られるかひまようです。

博物館ガイドツアー

見学と野外観察をセットにしたツアーで、資料も付いてよろこばれています。7月は、佐久間小学校、諸輪小学校つくし学園が利用してくれました。

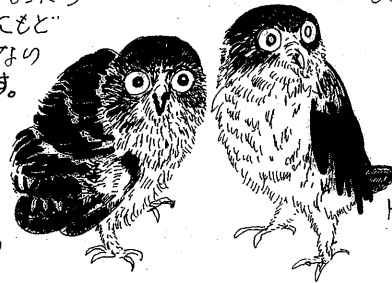


アオバズク受難

(平成21年7月21日)

新城の弁天、豊田の藤岡町から、あいついでアオバズクの幼鳥がとどけられました。巣立ちまちかのところを保護(拉致?)されてしまったようです。野ネコがいて、放置できない状況だったみたいです。

飛べるようになったら自然界にもどすことになりす。



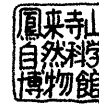
子ども自然講座 「鳳来寺山の魚や獣を調べよう」

(平成21年7月26日、8名+5名参加)



旧門谷小学校を借りて実施。本造のなつかしい校舎です。はじめに博物館に出かけて、この地方に生息する哺乳類を学びました。哺乳類の多くは夜行性で野外での観察がむずかしいからです。次に音為川で魚の観察です。カワヨシホリ、カワムツ、アブラハヤ、ホトケドジョウなどが確認できました。午後は、特別メニューとして、野生イシシを60頭以上飼育する山田秀雄さんのイシシ牧場を見学させていただきました。

イシシといっしょにエサ(スイカ)もごちそうになりました。ウリボウのオリの中にも入れてもらい、大よこびでした。



はつなだり 10.133
2009.7

野外学習会 「栗代鉦山の見学」

(平成21年7月12日 55名参加)

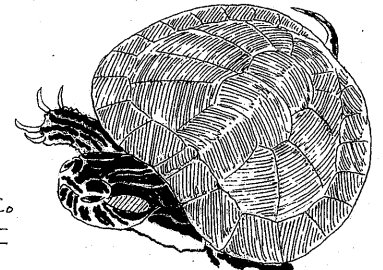
三信鉦工本社前にバスが到着すると、三崎社長が出向えてくれました。そして、絹雲雨(セリサイト)の実物にさわらせてくれ、金の採掘から始まった会社の歴史や、化粧品に使われるようになったセリサイトの特徴などについて、ていねいに説明してくださいました。特別に入らせていただいた鉦山では、黄鉄鉦や硫砒鉄鉦、紫石英などが採集できました。今回は応募者多数で、バスを2台にしましたが、それでも30名以上の方が参加できず、申し訳ありません。稼働中の鉦山での見学会は、三信鉦工(株)さんの厚意で実現しました。心から感謝します。帰路、煮え洲、預り洲のポットホールも観察しました。



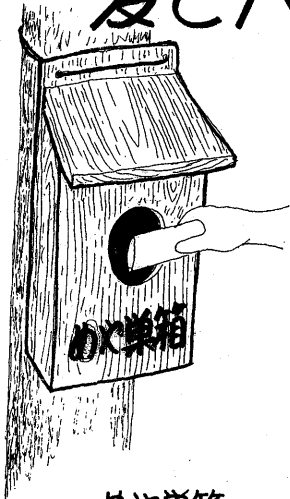
外来種ミシシッピーアカミガメ

(平成21年7月31日)

庭野地内で産卵中のところを発見されました。子ガメはミドリガメとも呼ばれ、ペットとして人気があります。アメリカ合衆国から輸入されたもので、逃げたり、すてられたものが野生化しています。新城にも生息して繁殖していることが確かめられました。本種は在来のイシガメの生息を圧迫します。



夏と人と博物館

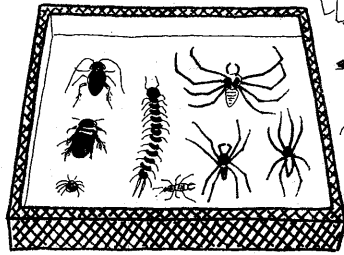
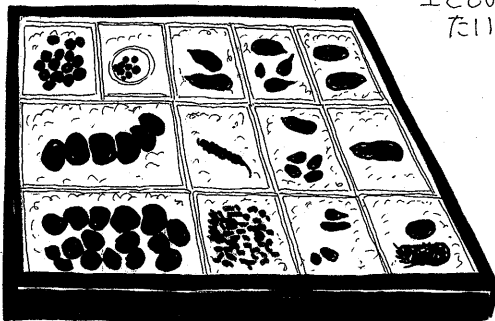


めや巣箱

展望室とDビーに設置してあります。博物館に対するアンケートを入れる箱で、立地、施設、職員サービスなどを5段階で評価する通信簿になっています。毎日回収して、業務の改善やサービスの向上、展示の見直しなどに役立っています。

デビュー前

現在、哺乳類の糞や鳥類のペリット(口からはき出す不消化物のかたまり)を集めて、標本にしています。また、不人気な生きものたちも集めています。例えばムカデ、クモ、ゴキブリ、タニなどです。ふつう博物館で展示されないような生きものや、ウンチなどにも光をあてたいと思っています。



大応援隊(平成21年7月2日~8月8日)

学校の夏休み期間を利用して、給食調理員のみなさんが、市内の各学校から応援に来てくれました。のべで32人の大応援団でした。館内外の環境美化作業や、ミュージアムショップの商品準備、標本の手入れなどしてもらいました。手ぎわよく作業を進めてくれ、ふだんできない仕事かすすんずんと進み、大助かりでした。夏休みといわず、毎月来てほしいくらいです。



雨の中、館のまわりを2日にわたり片づけてくれた塩瀬さん

博物館協力隊

今年は24名の方が登録してくれました。ほぼ毎月、活動週間を設けていますがベテランの方は都合をつけて随時活動してくれています。標本や図書のカテゴリ整理、学習会の補助や講師、環境整備などです。この夏の間だけでも、のべ22人が出勤してくれました。本当にありがたいことです。みんなに支えられている博物館であるとつくづく感じます。頭がさがります。



人気スポットとガラスふき

館内をそうじしていると、ガラスケースのたいてい決った場所で、手やおでこ、時々ほおや口の形が付いていることがあります。

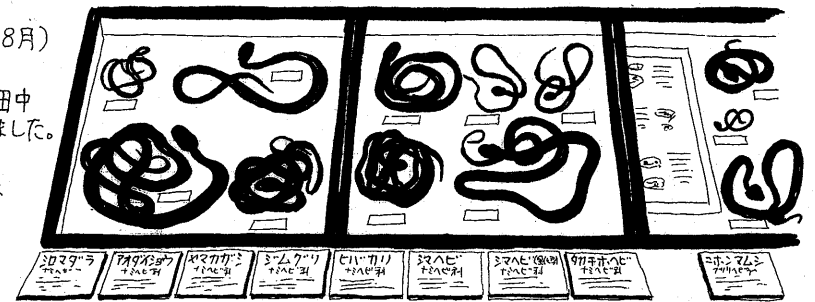
これは見学者が展示物にへばりついて、しっかり観てくれた証で、ガラスふきも、ついうれしくなります。夏の人気スポットは、鉱物、化石コーナー、仏法僧、昆虫、へびのコーナーです。ケースの手形、顔形は注目度を測るバロメーターです。



鳥の標本整理に取り組み水原さん

市内中学生職場体験(6月~8月)

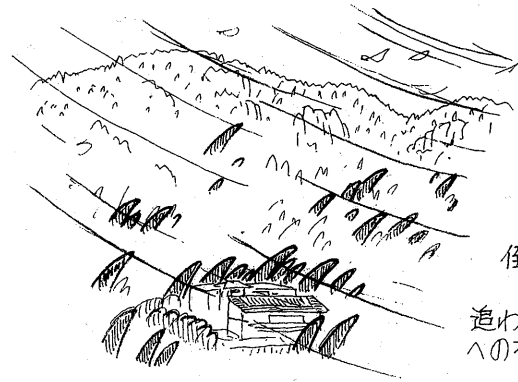
東郷中学の藤田君、鳳来中学校の城所、田中、柴崎君が3日間の職場体験に来てくれました。そうじ、岩石割り、展示解説作りなどを体験しました。博物館の印象はどうだったかな。



へびの常設展示改善(平成21年6月8日)

これまでの両生類・は虫類の展示は、液浸標本(ホルマリン浸け)で色もぬけてしまい、しかもへびとカエル類ですから、皆さん足早に通るコーナーでした。しかし、Dビーのへび飼育が意外と人気なことから、へびの常設展示を一新することにしました。

この地方に生息するへび8種を凍結乾燥標本にし、本来は昆虫標本を入れるドイツ型標本箱に納めました。フリーズドライのへびたちですから、脱走の心配もありません。それとお湯をそそいでも動きたしたりはしません。



台風18号上陸
(平成21年10月8日)

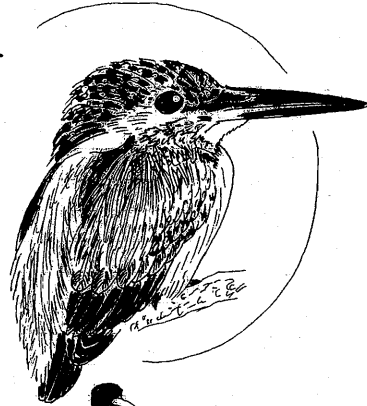
朝5時10分頃、知多に上陸。
猛烈な風が吹き荒れました。木をなぎ
倒し、電線を切断、館も終日停電。
職員総出で枝葉の片付け作業に
追われました。幸い施設や標本など
への被害はありませんでした。

ジュニアナチュラリスト養成楽級
川辺の学校「生きもの教室」

第3回を9月13日(16名+保護者)
におこないました。テーマは「魚と水辺の
生きものたちです。漁協の人にも指導
してもらい、魚釣りのテクニックも伝
授してもらいました。

最終回は11月29日(15名+保護者)。
「水辺の鳥」がテーマでした。カワセミと
姿を見せてくれました。

まどめの話で、小山校長先生から
豊川の水は昔よりきれいになったが、
河川改修などの影響で、住み家が
失われたため、魚は住みにくくなったと
いふことでした。



きのこ不作

8月15日から約1ヶ月間、ほとんど雨が降りませんでした。

森の中もカラカラの乾燥状態です。

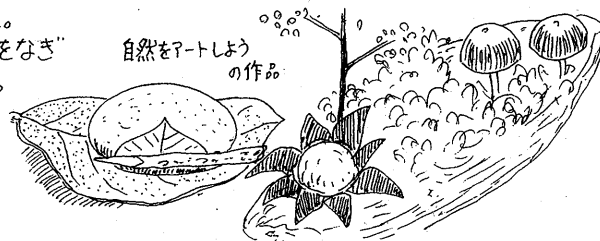
- 9月26日 友の会のきのこ観察会
 - 10月4日 碧南水族館一行のきのこ観察会
 - 10月13日 黄柳野小学校きのこ観察会
 - 10月15日 菅守小学校きのこ学習
 - 10月19日 東陽小学校きのこ観察会
- これらの観察会がありました
が、例年のようなきのこの発
生がなく、少々さびしい森で
した。しかし、ふたん目を向け
ない硬質菌に興味が集まり
ました。



鳳来寺山
自然科学
博物館

「みんなで創る博物館」展

(平成21年11月21日~22年1月1日)



友の会員からは、嵐、長谷川、牧平、深見、及部、丸山、鈴木
山本、片野、加藤、戸澤、藤岡さんが出展してくれました。
学校からは東郷西、鳳来西、海老、鳳来寺の各小学校
が参加してくれ、会場がにぎわいました。

野外学習会「きのこを調べよう」

(平成21年10月11日 45名参加)

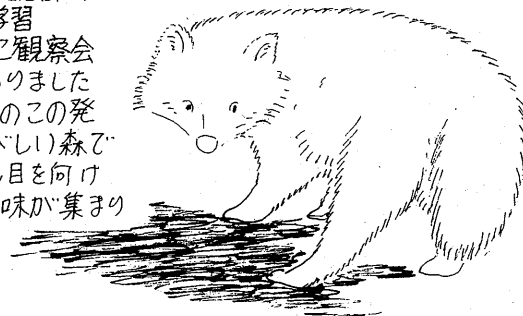
うてこき山を歩けども歩けどもきのこ
に出会えません。それでも、やっこのこと
で見つかったきのこを、大切に持ち帰
り、皆で特徴や生態などについて学
びました。



まっ白タヌキ現れる

(平成21年10月31日)

巣山で発見されました。全身まっ白
で目はピンクです。アルビノのようです。
農作物を護る
ワナにかかって
しまいました。



いつもとちがった展示機の「きのこ展」
(平成21年9月26日~11月3日)

博物館協力隊の深見さんたちと展示準備を
はじめましたが、山が乾ききっていて、展示用の
新鮮なきのこが集まりません。

展示テーブルには、サルノコシカケのなかまが
ずらりと並び、ハラタケ類は数えるほどで
す。こんな年もあるんですね。



子ども自然講座
「川砂の観察」

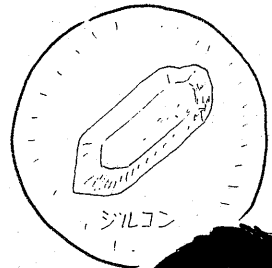
(平成21年8月30日)

豊川(寒狭川)の川原で、ふるい
にかけて採集した川砂を、さらに
ビーカーに入れて水で「選別し、
とり出した鉱物を顕微鏡で
観察しました。

そこには0.1mm~0.3mm
のきれいな結晶が輝いてい
ました。

ジルコンという鉱物で、
岩石の年代を測定するの
に用いられます。

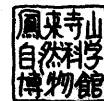
講師は花崗岩の研究で有名な仲井豊
先生です。みんな上手にジルコンをとり出
せました。次は砂金に挑戦したいなー。





野外学習会「鳳来寺山の紅葉を楽しむ」 (平成21年11月15日 晴れ 30名参加)

久しぶりの鳳来寺山での観察会でした。台風のためあとが残る馬の背岩展望台や胎内くぐりなどを巡りながら、秋の植物を楽しく学びました。



はつなだより No.136 2010.2

野外学習会「豊川の水鳥を観察しよう」 (平成21年12月6日 晴れ 26名参加)

今年も桜淵公園で開催しました。ここは山の中では見られない水鳥たちをまわりで観察できます。この日は38種の鳥が確認できました。上空には、ツミ、ハイタカ、オオタカ、ノスリなどの猛キン類と姿を現しました。彼らには絶好の狩場なのでしょう。

学芸員実習生・石川くん (平成21年10月31日~11月4日)

富山大学からの実習生です。実習用の特別メニューは用意してないので、私たちの日常の業務をいっしょにおこないました。

白いタヌキが現れたり、ガイドツアーがあったりと、あわただしく時間が過ぎていきます。極小博物館の実態の一部がかいま見れたのでほっとします。がんばってほしいです。



地層を学ぶ博物館ガイドツアー

9月30日: 山吉田小学校
11月1日: 7日: 碧南市水族館
1月27日: 鳳来西小学校

小学校高学年になると理科で地層について学びます。博物館の周辺には、地層が観察できる露頭がいくつかあります。館内からも見られます。教科書にはきれいな写真で解説されていますが、やはり実物に勝るものではありません。



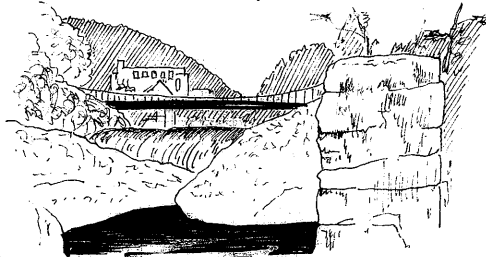
セツフンソウ (平成22年2月3日)

中庭のセツフンソウが今年も花を咲かせました。梅の樹と相性がいいのが毎年増えているようです。石雲寺と梅園に群生しています。我館もセツフンソウの花園をめざしてします。

野外学習会「日本の杉と森の生きものたち」 (平成22年1月17日 32名参加)

雨で中止になった学習会の再挑戦です。冬にどんな生きものが観察できるのでしょうか。心遣いは無用でした。落ち葉をふるいにかけて、中からクモ、ダニ、センチュウ、ゴキブリなどの仲間が落ちてきました。顕微鏡でのぞくと、とてど迫力がありました。

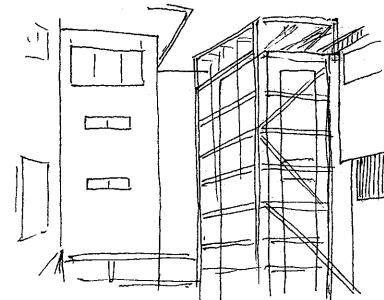
エコツアー「鳳来寺山」と「岩脈群」



- ①12月9日「日本の地質百選『鳳来寺山』の地質と自然環境」
- ②2月2日「大地を裂いたマグマの通り道・奥三河の岩脈群」の現地見学会をおこないました。コースがひろいので、バスツアーにしました。中央構造線の活動と隘路に関連したダイナミックな大地の動きが、目の前の地形に結びついて、ふしぎな感動でした。

バリアフリー化等改修工事着工 (平成21年12月22日~22年3月22日)

1月2日から臨時休館にして工事が始まりました。工事内容は、スロープ、エレベーター、障害者用トイレの設置。展示室、収蔵庫の空調設備導入。コリアスコーナーの全面改修。老朽展示ケースの改修、外壁塗装などです。オープン日は3月24日です。



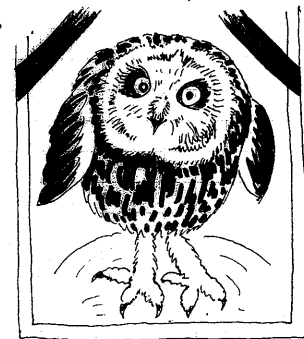
博物館協力隊の大そうじ大会 (平成21年12月3日)

15名(小椋、竹之内、深見、山本、戸澤一家、井野、牧平、長井、及部、澤田隊員)が出動してくれました。深見さん差し入れのきのこ鍋と焼きイモをエネルギーに変えてがんばってくださいました。1つと1つとありがとうございます。



さようならコミちゃん (平成21年11月10日)

平成17年3月14日にケガで運び込まれたコミちゃんです。あまり人を恐れず、エサの時間になると近づいてきて、羽をばたつかせてさよこします。コリアス(保護用ケージ)の人気者でしたが、この日帰らぬ鳥となりました。

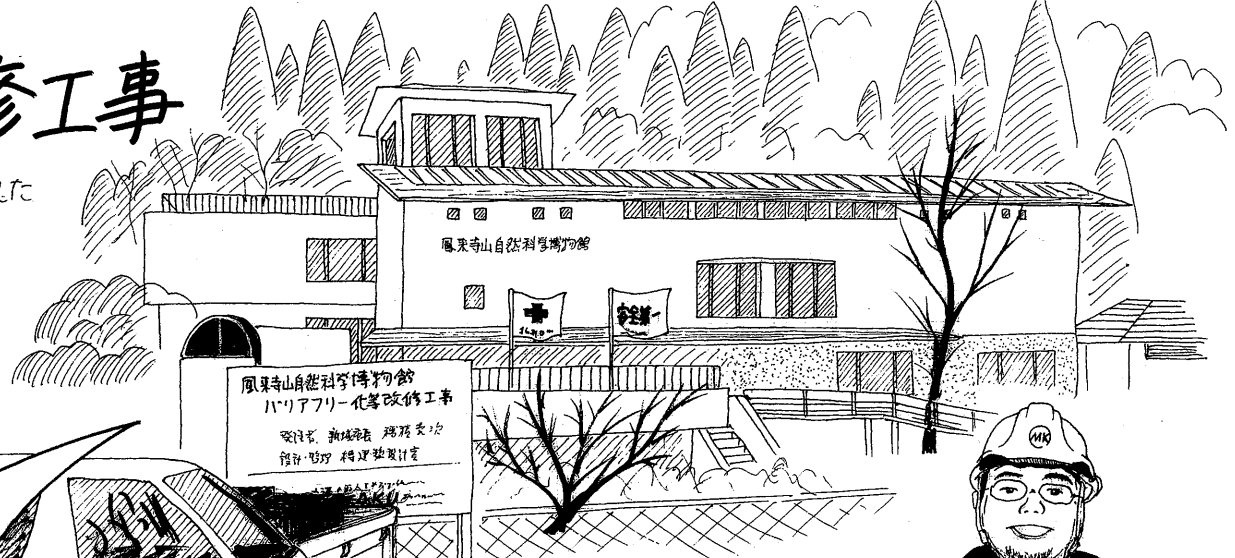


博物館バリアフリー化等改修工事

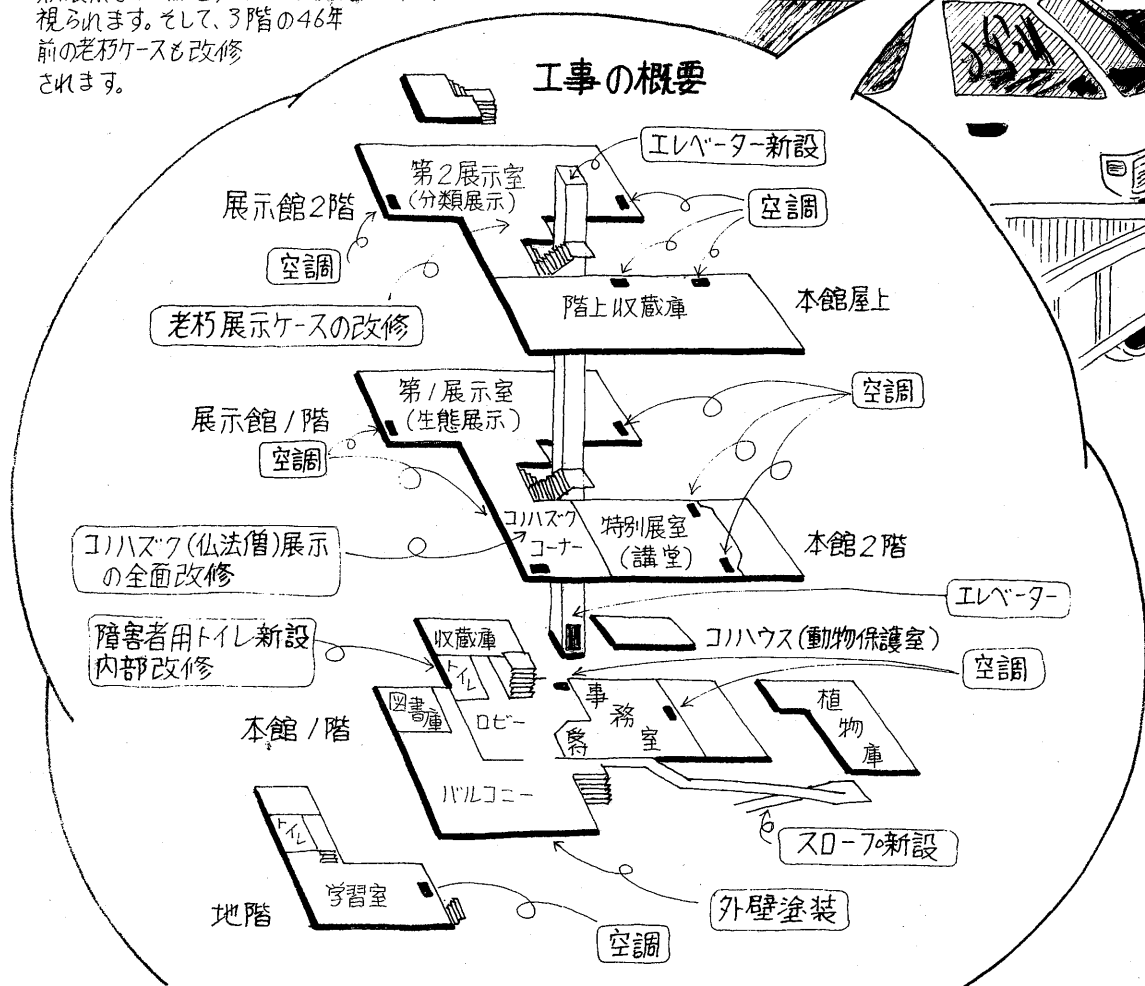
懸案であったバリアフリー化の工事が実現しました。建物が傾斜地を利用した3階建てのため、階段が多く、車イスや体の不自由な方にとって利用しづらい状況になっていました。今回の工事で、受付・玄関までのスロープと、ロビーから展示館までのエレベーターが設置でき、移動がとて楽になります。

また、展示室、収蔵庫、学習室に空調設備がつけます。これまで、外気温と一体化した室内温度であったため、夏は暑く、冬は冷蔵庫の中のような環境に負荷の少ない、自然にとてやさしい博物館ではありましたが、人や展示・収蔵資料にとっては、少々苛酷な施設でした。

展示ではコハズク(仏法僧)の展示コーナーを全面改修します。新展示では鳴き声と姿の映像が常時視られます。そして、3階の46年前の老朽ケースも改修されます。



工事の概要

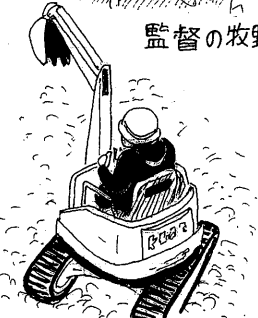
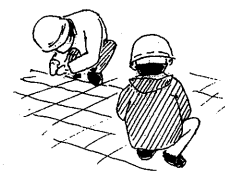


展示工事

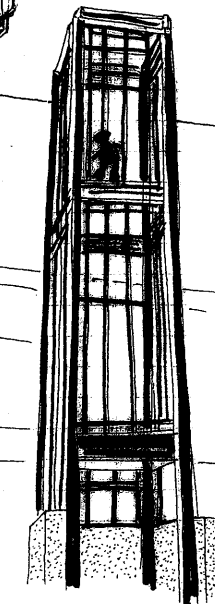


監督の牧野さん

トイレ工事



スロープ工事



エレベーター工事

施行 松井建拓株式会社 設計監理 樽建築設計室
 工期 平成21年/2月22日~22年3月22日

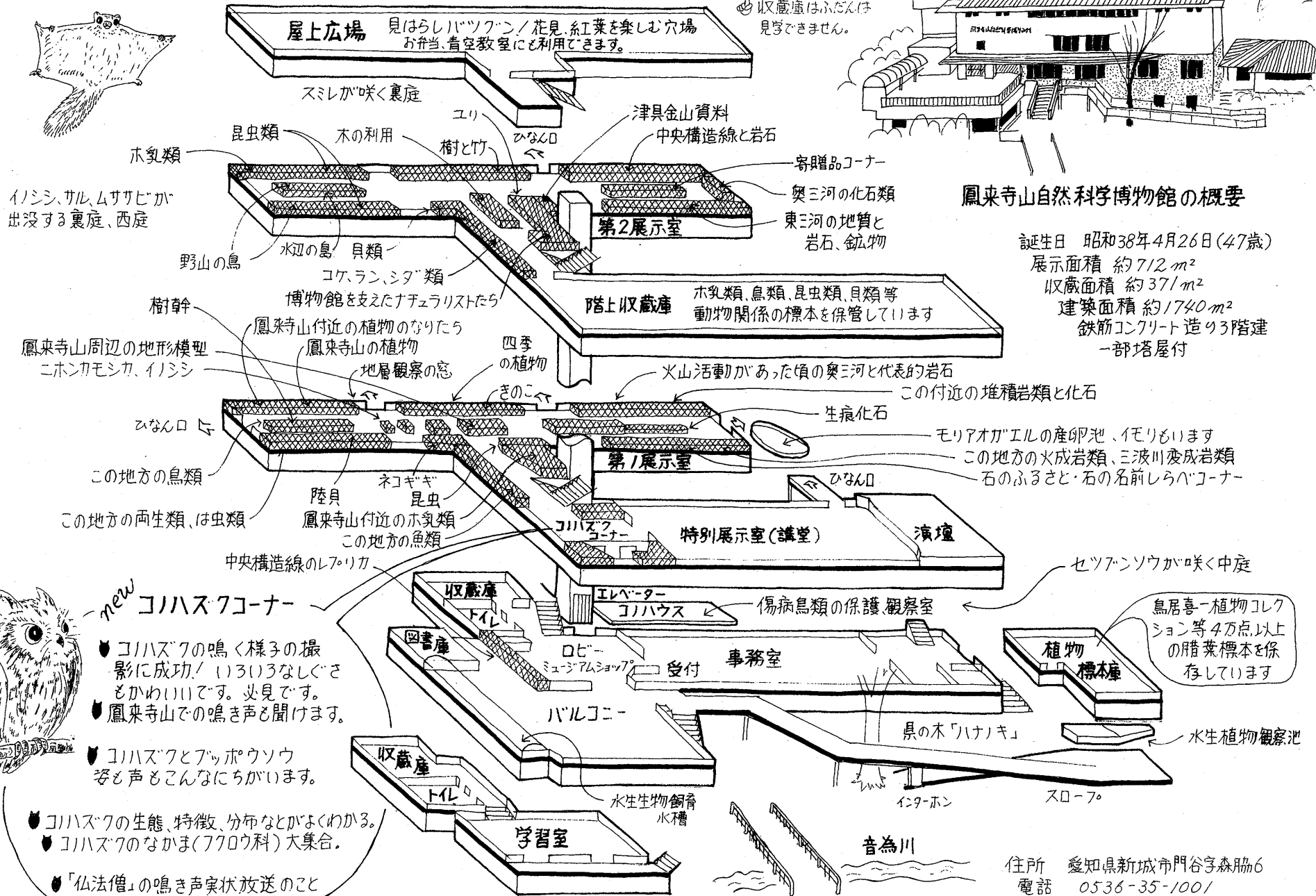
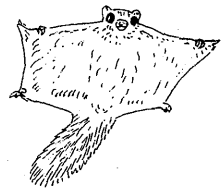
リニューアルオープン

おぼんたな

No.138
2010.3



博物館をすみずみまで楽しむ たんけんマップ



鳳来寺山自然科学博物館の概要

誕生日 昭和38年4月26日(47歳)
 展示面積 約712m²
 収蔵面積 約371m²
 建築面積 約1740m²
 鉄筋コンクリート造り3階建
 一部塔屋付

新装博物館と春



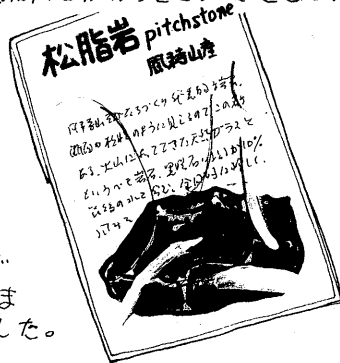
オープンセレモニー
(平成22年3月27日)

新装開館を記念して、市長、教育長、議長はじめ、市議会議員、友の会の博物館協力隊メンバー、工事関係者が集まりました。テープカットの後、館内を見学。仏法僧コーナなど熱心に見てくれました。見学が初めての人といて、よい機会になりました。



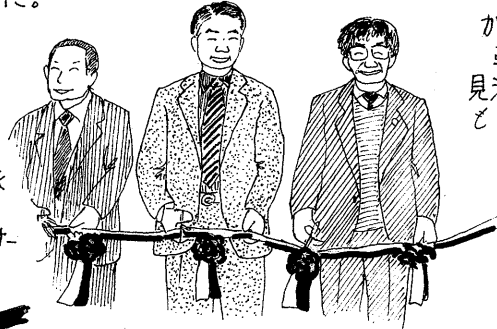
オープン記念品
(平成22年3月24日～26日)

リニューアルオープンの記念品として、松脂岩(ピッチストーン)を用意することにしました。鳳来寺山を形づくる代表的な岩石で、分布の規模は日本最大です。協力隊の井野さんが、クリスタルパックサイズにきれいに割ってくれ、ひとつひとつ袋づめました。手作りの心のこもった記念品ができました。



リニューアルオープン (平成22年3月24日)

館のバリアフリーと展示改修、空調導入、老朽部改修などの工事が完了(No.137,138参照)し、この日から新装開館となりました。25日までは記念品として松脂岩を来館者にプレゼント。抽選で招待券も進呈しました。



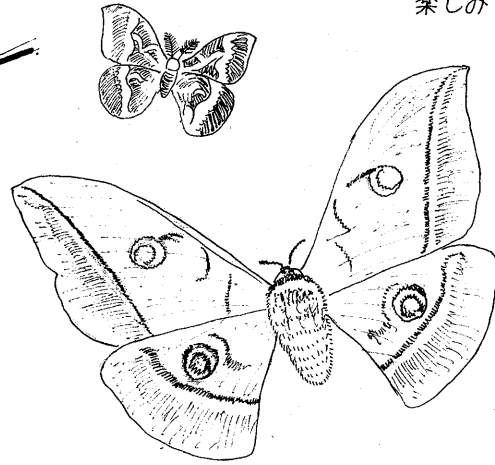
展示復旧作業 (平成22年3月13日～23日)

3階に残っていた47年前の展示ケースやいたんだケースと今回の工事で改修しました。展示してあった標本類は一担退避し、ケース完成後に復旧させます。リニューアルオープンに向け、協力隊と教育委員会(文化課)の応援で作業を進め、無事間にあわすことができました。



今年もやってきました (平成22年4月30日)

今年初の声の仏法僧の情報が四谷から届けられました。鞍掛山の中腹にある干枚田が見渡せるところです。鳳来寺山でと鳴いてほしいです。



特別展「夜の蝶・蛾の世界」展 (平成22年4月24日～5月5日)

三河生物同好会前会長の京川元章さん(故人)のコレクションの中から、東三河地方で採集された虫蛾の標本を中心に展示しました。カガを好まない人も多くですが、標本箱の中のかたらの色彩や斑紋のみごとなさに、認識をあらためた人が多いと思います。鱗翅類の中では、カガが圧倒的に多く、チョウは、その一部の仲間にはすきないことがわかりました。

22年度学術委員総会・友の会総会 (平成22年4月25日)

午前が学術委員総会でした。今年から新たな委員として鈴木和博先生(名大年代測定センター前所長)と小林元男先生(県森林・林業技術センター技術開発部長)に加っていただくことができました。

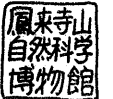
学術面がますますパワーアップします。午後は友の会総会を行いました。今回の特別講演は元東山動物園の園長の川村浩先生にお願いしました。演題は「動物園のおしごと」。

類人猿のなまの話を中心に、人のなかまのおもしろい生態について、いっぱい聞くことができました。総会終了後は、恒例の五平とちづくりを楽しみながら親交を深めました。



学習会「作手高原の春の花を楽しむ」 (平成22年4月29日 35名参加、雨のうち晴れ)

フナの大木の新緑をあおぎ、カスミ草花にけむる亀山城跡をながめて、さわやかな春の高原の自然を満喫できました。



初夏のできごとと博物館



はつなだより No. 140
2010.6

モリアオガエルが産卵する博物館 (平成22年5月19日)

今年の産卵は少々に配でした。2ヶ所ある産卵池の1つを改修工事の際に8mほど移動させたからです。この日、昔からの池で初産卵を確認。しかし、喜びとつかの間で、2日後には何者かに食べられ、あとかたもなくなっていました。

一方、移動させた池には、6月2日に2ヶ所の卵塊が産みつけられ、ひと安心。その後も産卵が続き、計5ヶ所となりました。新しい池で、現在オタマシクシが元気に泳いでいます。



作手の樹木調査(平成22年6月26日)

作手地域には立派な樹が多く残り、大切にされています。学術委員の山田由乃先生と、それらの調査に出掛けました。

マユミ、ヒイラギ、カツラ、ヤマグワなどの大木は、初めてお目にかかるものでした。

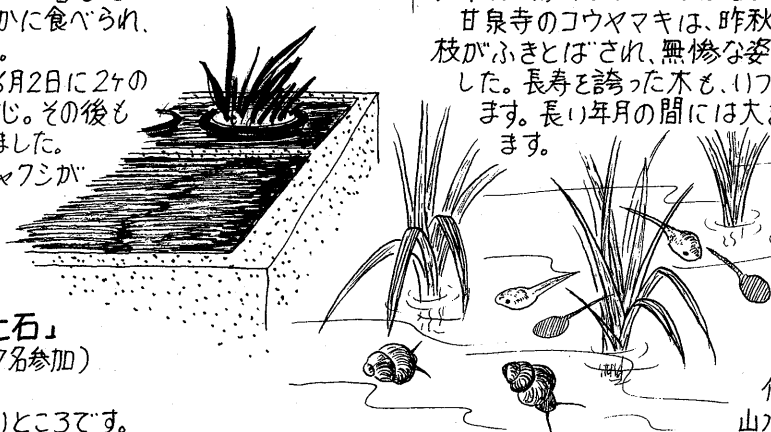
甘泉寺のコウヤマキは、昨秋の台風18号で枝がふきとばされ、無惨な姿になっていました。長寿を誇った木も、いつか寿命を迎えます。長い年月の間には大きな試練もあります。



野外学習会 「東栄町周辺の地層と化石」 (平成22年6月6日、晴、37名参加)

東栄町は地質的に楽しいところです。これまで何度もおとずれています。今回は本郷地内を中心に、地層の見学と化石の採集に出掛けました。東栄町のあたりは設楽層群と呼ばれる、南北30km、東西20kmに及ぶ砕屑岩類と火山岩類が分布する、北東部分にあたり、およそ1700万年前の海にできた海成層が広がっています。

また、その後の火山活動の末期に貫入してきた、岩脈や岩床といたるところで観察することができました。



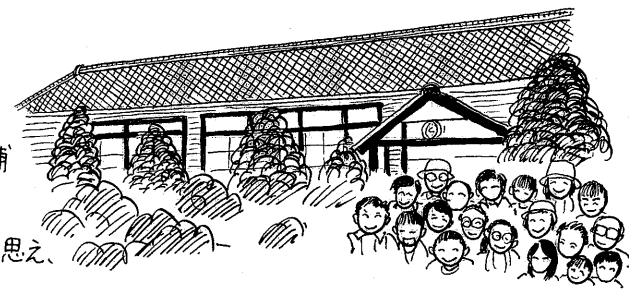
生物多様性を学ぶ現地見学ツアー 「夏の棚田と生きものたち」 (平成22年6月19日 10名参加)

城壁を思わせる愛郷島田のみことな石垣。COP10のさまざまな資料で紹介される四谷の干枚田。どちらも豊富な山水、モリアオガエルの生息地です。田を守る労苦に敬服。初秋にとう一度訪ねます。

市の花や木を決めます! (平成22年6月28日)

新城市は10月に迎える合併5周年を記念して、市の花・木・鳥などを決めることになりました。それぞれに5候補があり、ハガキで投票します。

ユニークなのは市の石と市のカエルも決めようということです。市民が誇りに見え、外に向かってアピールできる花、木、鳥、石、カエルが決まるといいです。この日は、東郷東小学校へ説明会に行ってきました。



夏の自然合宿(友の会行事) (平成22年6月12~13日、24名参加)

木造の旧門谷小学校を合宿所にして、ナイトウォッチング、バードウォッチング、川遊びなどをおこないました。夜はコハズクの鳴き声を求めて、遠く明神山系の亀淵林道の奥へ、鳴き声スポットとして知られる仙坂峠まで足をのびました。結果はX。参加者の大きな期待が山に波動し、コハズクとだまりこんでしまったのかもしれません。来年はもっと大きな期待をもって大合宿をしましょう。

市の石候補

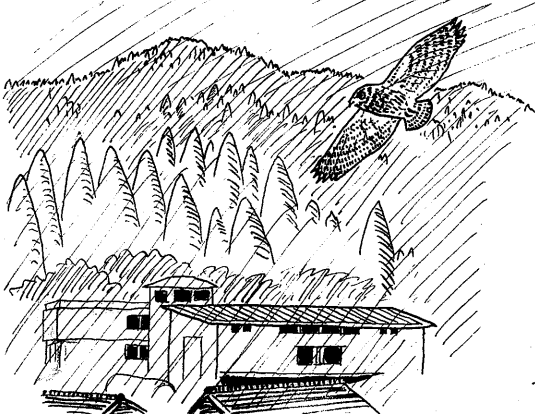


松脂岩

市のカエル候補



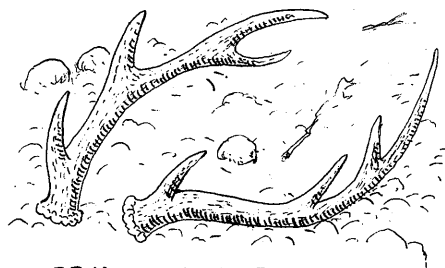
モリアオガエル



博物館の前で「ぶっほーそー」 (平成22年5月29日)

早朝4時、博物館の正面の山で、コハズクが鳴きました。さらに、その日の夕方7時にも。聞いたのは館のお隣さんの日々野さん夫妻です。

こんな身近なところに来ていたとは、驚きです。残念ながらその後は鳴いてくれません。昔はめずらしいことではなかったようです。



門谷にシカ出現 (平成22年5月7日)

館の左隣の庄田さんが立派なシカの角を持ってきてくれました。門谷地内の高徳でひろったそうです。

これまで、鳳来の西部地域、玖老勢では何度か目撃してきましたが、いよいよ門谷まで分布を広げてきたようです。

農林業への被害も出ており、心配です。宇連川左岸での目撃情報もあり、さらに分布を広げているようです。

